

## CSV理論の概念とその改善点について — 日系食品企業の事例から —

1355060 佐藤脩平  
指導教員 藤掛洋子

### 【背景・目的】

筆者はパラグアイでのSV渡航の経験から貧困層の方々を対象とするビジネスを行うことで彼らの生活を改善しながらも利益を生み出すという貧困層向けビジネスに興味を持った。特に、数ある貧困層向けビジネスの中でも比較的新しい概念とされている共通価値の創造 (Creating Shared Value : CSV) の理論について事例研究を行い、CSV理論に貢献することが本研究の意義である。また、事例研究を通じて概念があいまいである各貧困層向けビジネスの概念を整理する。

そもそもPorterによれば、企業がビジネスとして共通価値の創造を実践していくには、“戦略”と“評価”の二段階のプロセスを循環する必要があるとされていた。しかし、実際に事例研究を行ってみると、Porterの提唱する理論的ビジネスモデルには戦略段階の前に導入段階として「対象地域に対し深い知見と経験を持っている機関との連携」が必要なのではないかという仮説に至った。そこで実際にアフリカにてCSV活動を行っている日系食品企業に焦点を当てることで理論と現状の乖離や、理論に不足しているものを検証しようと試みた。

### 【方法】

アフリカにてCSV活動を行っている日系食品企業の国際部部長に対する個別聞き取り調査 (半構造インタビュー)

### 【結果・考察】

聞き取り調査を通じて、i) 仮説の有効性の実証 ii) CSR、CSVに対する企業内部の考え方 iii) 経済的価値だけでない企

業に対するCSV活動を行うことのメリット、という3点のことがわかった。

i) 仮説の有効性の実証：本インタビュー調査を行う前段階として、「対象地域に対し深い知見と経験を持っている機関との連携を導入段階として取り入れることはこれからのCSV活動において必要である」という仮説を立てた。なぜならば、現地の内情を何も知らない企業がいきなり現地に行き、解決すべき社会課題の模索やそれを解決するためのビジネスモデルの策定を行うことは非常に難しいのではないかという疑念があったからだ。実際にインタビュー調査を行ってみると、現地のニーズを知るという点や、資金確保という点において外部との連携は有効であるということがわかった。

ii) CSR、CSVに対する企業内部の考え方：インタビュー調査を通じて企業内部ではCSRやCSVの重要性が理解されにくいという現状を知ることができた。

iii) 経済的価値だけでない企業に対するCSV活動を行うことのメリット：インタビュー調査を通じて先行研究では知りえなかったCSV活動が企業に与えるメリットについて理解することができた。CSVを提唱しているPorterは企業がCSV活動を行うことのメリットとして、利益の向上や、市場の拡大等を挙げていた。しかし、聞き取り調査ではCSV活動を行うことによって、数値のように目に見える利益に加え、人材確保等の目に見えない利益が企業にもたらされるということがわかった。

### 【結論】

仮説の検証のために聞き取り調査を行った結果、やはり導入段階としての連携は事業をより良いものにしていくことにおいても、予算的な面においても有効であると考えられ、仮説は有効であると結論付ける。